

考・努・感

“つなげる” 3学期を!

始業式での校長先生の話・学年集会での各先生の話の中に「3学期は3年生につなげる学期」という言葉がありました。先生方がどんな思いで“つなげる”という言葉や、みんなにかけたか考えたでしょうか。中学3年生は、『進路』と向き合っていくことになります。ひょっとしたら人生の中でも一つのターニングポイント(分岐点)になるかもしれません。そんな大切な1年を迎えるにあたり、この3学期の過ごし方はとても大事になってきます。

4月からの1年間を気持ちよくスタートできるように、3年生として過ごす1年間がより充実したものとなるように、残り2か月あまりの2年生として過ごす日々が、3年生につなげられるように様々な面で意識を高くして過ごしていきましょう。



3学期を過ごす上で・・・!

～学期はじめの学年集会より～

(生活面)

中学校生活も残り1年余りとなり、3学期は3年生につなげる学期。様々な面で力を伸ばして行ってほしい。箱根駅伝で活躍した選手の中に、神野選手という愛知県出身の選手がいましたが、中学校時代は女子よりも遅かった。ただ神野選手はそこであきらめずに、こつこつ努力した結果、箱根駅伝で大活躍することができた。何事もこつこつ努力していくことが大事。



(学習面)

・期限を守る!

冬休みの課題を、今日(始業式)に間に合わせたことはとても大事なことです。まだ未提出の人はすぐに提出しましょう。

・やるべきことをきちんとやる!

(楽しいことと並行して!!)

・チャイム着席

余裕をもって授業に臨めるように!

自分たちで声をかけられるように!

・復習を大切に!

(全体)

2学期末に話をした「気づく」にプラスして、「気遣い」の心をもって生活してほしい。みんながそんな気持ちで生活できれば、全員がもっと楽しく充実した学校生活を送れるはず。



(来週の予定)

16日(月) 総合: 自学の時間

※16日(月)～18日(水)

3限より45分授業



【修学旅行に向けて】

体育館で見た修学旅行の映像はどうでしたか。きっと楽しみが増した人も多いはず。来年度は、これまでのコースを少し変更し、和歌山県の一番南の方まで行きます。そのため行程も一部変更しています。来週は、各クラスで2日目の体験活動について調べていきます。ぜひ楽しみにして、準備・計画をしていきましょう。

最後の言葉にもあった「全員が楽しいと思える修学旅行」をみんなで作っていきましょう。

☆『当たり前』にやれる素晴らしさ☆

(ニュースの概要)

埼玉県鴻巣署は4日、県道に散乱していた古紙を一人で回収した行田市在住、県立鴻巣高校1年の湯本里咲さん(16)に感謝状を贈った。見て見ぬふりをして通り過ぎる自分を受け入れられず、後先のことを考えずに一心不乱に集めた行動は、周囲の心を揺り動かした。

自転車で通学している湯本さんは昨年12月21日夕方、鴻巣市屈巢の県道を通りがかった際、新聞紙や折り込みチラシが半径約3メートルにかけて大量に散乱しているのを目の当たりにした。一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなった」と戻って来た。

当初は古紙を自転車の前かごに積んで自宅に持ち帰ろうとしたが、収まり切れない。約500メートル離れたコンビニエンスストアへ行き、ゴミ袋を買って戻り、再び拾い集めた。現場は交通量の激しい通り。湯本さんは青信号になるたびにひたすら拾い続けた。

午後5時20分ごろ、同署に「女子高生が落とした荷物を一人で拾っている。かわいそうだから助けてほしい」と連絡が入った。署員が駆け付けると、すでにごみ袋3袋分、計10キロの古紙が回収されていた。持ち帰り方法を考えていた矢先に署員が到着。安心した湯本さんの目からは涙が流れた。

高校ではバスケット部に所属している湯本さん。学校周辺のごみ拾いなど美化活動をしてから朝の練習に取り組んでおり、「学校でもやっているのだから当たり前と思って拾いました」と振り返った。

市村知孝署長から感謝状を贈られ、湯本さんは「周りの事をもっと見られる一年にしたいです」とほほ笑んだ。



1月6日(埼玉新聞)※YAHOOニュースより

最後の「学校でもやっているのだから当たり前と思って拾いました」という言葉に、この人の人間性が象徴されているでしょう。もし、あなたがこういった場面に遭遇したら、どんな行動をとったでしょうか。正直、私自身はこの女子高生と同じ行動をとるという自信はありません。

今回のようなゴミの散乱という状況だけでなく、日々の生活の中で『見て見ぬふり』をしてしまったことは、誰しもあるのではないのでしょうか。そして、見て見ぬふりをしてしまった後は、何か心の中に引っかかるものを感じるのではないのでしょうか。

私自身、この記事を読み、何か力を分け与えてもらった気がします。今年は、心に引っかかるものがない一年にしたいなと素直に思いました。